

# 教科等研究会（小学校音楽部会）

## 令和2年度 研究活動のまとめ

### 1 研究テーマ

「感じとろう 伝えあおう 高めあおう 音楽のよろこびを」  
～ふるさとの伝統や文化に親しみ よさを味わう授業の創造～  
(仮説) ふるさとである地域や日本の伝統や文化に親しみ、そのよさを味わう活動を授業に位置づければ、それらの活動を通して音楽のよろこびを感じとり、伝え合い、高めあうことができる子どもが育つであろう。

### 2 研究経過

第1回			第2回			第3回		
期日	人数	場所	期日	場所	研修会	期日	場所	研修
7/6	23名	甲佐小	11/5	甲佐小	(講話)	1/22	甲佐小	(中止)

### 3 研究の概要

#### (1) 研究の内容

##### ①本部会の研究テーマの考察

今年度の熊本県音楽教育研究大会は上益城・宇城地区が担当で実施する予定だったため、本部会の研究テーマと大会のテーマを同じものにして研究に取り組むことにした。「感じとろう 伝えあおう 高めあおう 音楽のよろこびを」は、前年度の大会テーマから引き継いでいる。

学習指導要領には、音楽科の目標として「生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育成することを目指す。」と明記されており、そのために、「音楽的な見方・考え方を働かせる」ことが必要であると示されている。「音楽的な見方・考え方」とは、「音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や文化などと関連付けること」であると考えられる。「音楽に対する感性」とは、音や音楽の美しさなどを感じ取るときの心の働きを意味している。また、「音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え」とは、音や音楽を捉える視点を示しており、音楽科の学習においては、音楽を形づくっている要素を聴き取ることと、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取ることを支えにして、音や音楽を捉えることが必要である。このように、音楽科の目標を達成するには「感じとる」ということが欠かせない。

また、「音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図り、音楽科の特質に応じた言語活動を適切に位置付けられるようにすること」が指導に当たっての配慮事項として示されており、表現領域と鑑賞領域の両方で言語活動を扱うように明記されている。「音楽科の特質」の一つは、友達と思いを共有するためのコミュニケーションが、言葉だけではなく、音や音楽を介して行われるという点である。思いや意図、感じ方を音や音楽、言葉で「伝え合う」ことで共有することは、個々の子供の学びを深め、「高める」ことにも有効であると考えられる。

中央審議会答申において、音楽科の課題として「我が国や郷土の伝統音楽に親しみ、よさを一層味わえるようにしていくこと」が挙げられており、更なる充実が求められている。それを踏まえて小学校音楽科の改訂の基本的な考え方として「我が国や郷土の音楽に親しみ、よさを一層味わうことができるよう、和楽器を含む我が国や郷土の音楽の学習の充実を図る。」とされている。そこで、今年度はサブテーマを「ふるさとの伝統や文化に親しみ よさを味わう授業の創造」とし、我が国や郷土の音楽にしぼって研究に取り組み、音楽のよろこびを感じとり、伝え合い、高めあおうとする子どもの育成を目指した。

##### ②研究の実際

###### ア 研修会（講話・演習）

「『学習構想案』作成にチャレンジ！～『熊本の学び』推進プランに基づいて～」

講師：熊本県立教育センター 原口弥生 指導主事

「熊本の学び推進プラン」とそこで示されている「学習構想案」についてお話しいただき、講話を受けて実際に学習構想案の一部を作成するという演習に取り組んだ。

「熊本の学び推進プラン」では、熊本のすべての子供たちが、「学ぶ意味」を問いながら、「能動的に学び続ける力」を身に付けることを目指している。また、四つの基本方針の中の一つに「子供が問いを発し、課題に立ち向かい、学びを深める授業改善の推進」を掲げてあり、熊本の子供たちを、

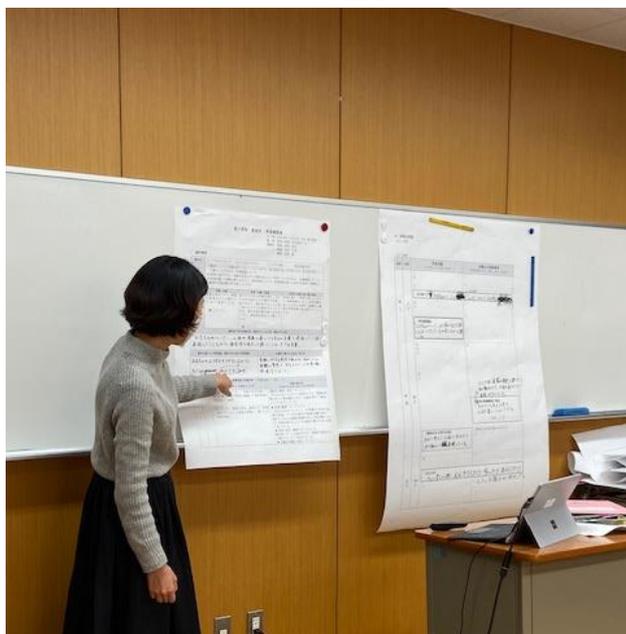
「学びの主体」として育てるためには、子供の「わくわく」が連続し、「分かった」「できた」「もっとやってみよう」が生まれる授業を目指すことが大切と分かった。「熊本の学び」における授業づくりにおいては、

- ◎子供の「わくわく」（知的好奇心や・興味・関心等）が連続し、「学びを生かそう」とする姿が生まれる単元デザイン（音楽科においては題材デザイン）の工夫
- ◎子供の「なぜ」「おそらく」（疑問や予想等）が生まれる導入の工夫
- ◎子供の「やってみよう」「なるほど」「きっと」（挑戦や納得等）が生まれる展開の工夫
- ◎子供の「分かった」「できた」「もっとやってみよう」（実感や達成感、更なる意欲等）が生まれる終末の工夫

がポイントとなり、学びの深まりのために、主体的・対話的で深い学びへとつながるICTの効果的な活用を図りましょう、との説明があった。

「学習構想案」については、これまでの一般的な「学習指導案」の項目・内容と比較し、「大切にしていきたい3項目」を追加したこと、表記の順序に関して、単元構想の中心となる大切な項目を「1単元構想」としてまとめ、最初に明記することの説明があった。ここでの「大切にしていきたい3項目」は、①単元終了時の子供の姿（単元のゴールの姿・期待される姿）②単元を通した学習課題（単元の中心的な学習課題）③単元で働かせる見方・考え方の三つで、後半の演習は、この3項目にしぼって、学習構想案の作成に取り組んだ。

演習では、昨年度本研究会で授業研究を行った、「ようすをおんがくで『おもちゃのへいたい』」を題材として、グループごとに学習構想案の中の「大切にしていきたい3項目」の作成に取り組んだ。それぞれのグループで作成したものを全体で発表し、共有した。



## イ 学習構想案の作成

学年ごとのグループに分かれ、3学期に扱う題材の学習構想案を作成する予定であった。

### (2) 成果と課題

#### (成果)

- 具体的な言葉や記入例をもとに丁寧に教えていただき大変勉強になった。
- 演習を通して、実際に学習構想案を書く経験ができたことがよかった。
- 資料をもとに、一人ではなくグループで話し合いながら考えることで学びも多くよかった。

- 音楽科の構想案であることを意識して、音楽の要素を踏まえた上で児童の姿を想像しながら、学習課題を考えたり目標を立てたりすることが分かった。
- 学習構想案を立ててみると、授業で活動している子どもたちの姿が思い浮かんだ。具体的に書くところがよいと感じた。

(課題)

- コロナ禍にあることを考慮し、歌唱や楽器演奏を伴う音楽科の特性上、授業研究会をもつことを断念した。ICTの活用等、コロナ禍における授業の在り方を検討する必要がある。

4 実践事例

(1)研修において作成した学習構想案の一部

題材終了時の児童の姿 (題材のゴールの姿・期待される姿) 「おもちゃのへいたい」の曲や演奏の楽しさを自分の言葉で表現したり、体を表現したりしながら、曲全体を味わって聴くことができる児童。	
題材を通した学習課題 (題材の中心となる学習課題) おもちゃのようすをそうぞうしながら、 さよくは <del>おもしろ</del> <u>みぶり</u> をしよう。 を聴こう。	本題材で働かせる見方・考え方 音楽に対する感性を働かせ、拍リズム、 楽器の音色と、自己のイメージや感情、 関連付けらる。
指導計画と評価計画 (2時間単元扱い 本時1/2)	
過程 時間 学習活動 (「問い」を設定しても可)	評価の観点等 ●本単元2回で評価の観点で5回に評価実施。 【第①】観察・発言・ワークシート

題材終了時の児童の姿 (題材のゴールの姿・期待される姿) 「おもちゃのへいたい」の曲や演奏の楽しさを自分の言葉で表現したり、体を表現したりしながら、曲全体を味わって聴くことができる児童。	
題材を通した学習課題 (題材の中心となる学習課題) おもちゃのようすをそうぞうしながら、 さよくは <del>おもしろ</del> <u>みぶり</u> をしよう。 を聴こう。	本題材で働かせる見方・考え方 音楽に対する感性を働かせ、拍リズム、 楽器の音色と、自己のイメージや感情、 関連付けらる。
指導計画と評価計画 (2時間単元扱い 本時1/2)	
過程 時間 学習活動 (「問い」を設定しても可)	評価の観点等 ●本単元2回で評価の観点で5回に評価実施。 【第①】観察・発言・ワークシート

題材終了時の児童の姿 (題材のゴールの姿・期待される姿) 曲の気分を感じ取って、音楽を形づくっている要素を意識し、 楽しんで聴くことができる児童。	
題材を通した学習課題 (題材の中心となる学習課題) 「おもちゃのへいたい」のお話を をそうぞうし <del>ながら</del> <u>ながら</u> 、曲の 楽しさを味わって聴こう。	本題材で働かせる見方・考え方 音楽の感性を働かせ、拍の流れや リズムなどをもとに、おもちゃのへいた の様子と関連付ける。
指導計画と評価計画 (2時間単元扱い 本時1/2)	
過程 時間 学習活動 (「問い」を設定しても可)	評価の観点等 ●本単元2回で評価の観点で5回に評価実施。 【第①】観察・発言・ワークシート

(2) 講師の先生が作成された資料

4 本時の学習

(1) 目標 拍やリズム、楽器の音色を体で感じながら、曲の情景を想像して音楽を聴くことができる。

(2) 展開

過程	時間	学習活動 (◇予想される児童の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図、内容、方法等)
導入	5分	1 課題をつかむ ①曲名を知る。 ◇ぬいぐるみかな。車かな。	○おもちゃ箱から兵隊のカードを出して、曲への関心を高める。
		<p><b>【めあて】 「おもちゃのへいたい」は、どんなようすをあらわしているのかそうぞうしてきこう。</b></p> ②どんな音楽なのか問いを持つ。 ◇なにをあらわしているのだろう。 ◇行進しているみたい。 ◇トランペットの音、たいこの音がする。	○児童の発言を、「拍」「リズム」「音色」など、音楽を形づくっている要素ごとに分類しながら板書する。
展開	30分	<p><b>【学習課題】</b> 「おもちゃのへいたい」のおんがくにあわせてからだをうごかさう。</p> 2 課題解決に向けて活動する ①音楽に合わせ、兵隊になりきって体を動かす。 ②兵隊が箱から出てきて戻るまでのおはなしを考える。 ◇持ち主が寝た後にこっそり起きてみんなで遊んでいます。 ◇行進の練習をしています。 ◇朝がきたので、慌てておもちゃ箱に戻ります。 ③考えたことを出し合う。 ④全体で音楽に合わせて体を動かしながら確認する。 ・拍・情景・リズム・楽器のことなど。 ◇1, 2, 1, 2の拍に合わせて行進をしているんだ。 ◇兵隊だけでなく他にもおもちゃがいそうだな。 ◇ラッパや太鼓の演奏の真似もしてみよう。	○児童の動きに対して、教師が理由を尋ね、想像したことを全体で共有する。  (個に応じた支援) ○考えが浮かばない児童には、もう一度聴かせながら、個別に声掛けをして支援する。  ○それはどんな所からそう感じたのか問い返し、音楽を形づくっている要素に気付かせる。  ○児童の考えをホワイトボードに写し、黒板に貼っていく。  <b>【具体的評価規準】 態</b> ○拍やリズム、音楽の特徴に応じて体を動かしたり、お話を考えて表現しようとしていたりしている。 (方法：観察・ワークシート)  <b>【到達していない児童への手立て】</b> ○拍に合わせて自由に体を動かすよう、隣で一緒にやってみせる。
		<p><b>【期待される学びの姿】</b> 拍やリズム、音楽の特徴を感じ取り、音楽や自分の考えたお話に合わせて体を動かし表現している。</p>	
終末	10分	3 学習課題に対する答えをまとめ、めあてに対する振り返りをする。	○めあてや課題と照らして行い、課題解決の方法や学習内容をまとめる。
		<p><b>【まとめ】</b> 「おもちゃのへいたい」のおはなしをそうぞうしたり、きよく（はくやりずむ）にあわせてからだをうごかしたりすると、おもちゃのへいたいがあそんでいるようすや、あわてておもちゃばこにもどっていくようすを（いろんながつきで）あらわしているのがわかりました。</p> ◇音楽を聴いてお話を考えたり、音楽に合わせてみんなで体を動かしたりするのはとても楽しい。また聴いてやりたいな。	○学習のめあてに立ち返りながら、活動での成果を褒めて、鑑賞活動への意欲を高める。